



青森市子育て

サポートセンター

通信

H27. 2. 28 発行 Vol.6

※青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供(青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《さらさら塾》や、発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営)、情報収集と発信、また子育て相談の対応等を行っています。



『家庭教育』って?

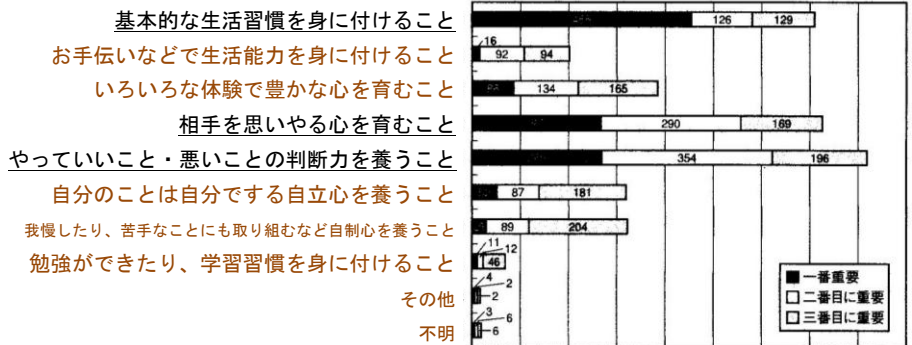
子育てって? 親の役割って?

『家庭教育』とは、すべての教育の出発点と言われています。保護者が、家庭で行う教育やしつけに関して、具体的にどんなことを指すのでしょうか?
そこで、青森県家庭教育支援協議会が平成21年に行ったアンケートの結果【右表】を基に考えてみました。
家庭教育の役割の中で、保護者が“一番重要”だと考えていることは(表中の棒グラフの黒い部分)

『家庭教育の役割について』

(調査対象: 青森県内 18 の市町村の小学1年生の保護者 1,192人)

家庭教育の役割で重要だと思っていること【全体】



出典 「青い森のあったか子育て Vol.3」(平成21年3月) 青森県家庭教育支援協議会 n=1192

サポートセンター



- ①「基本的な生活習慣を身に付けること」 455人
 - ②「やっていいこと・悪いことの判断力を養うこと」 269人
 - ③「相手を思いやる心を育むこと」 267人でした。
- みなさんは、家庭教育の中でどの役割が重要だと考えましたか・・・?
それぞれの家庭で大事にしていることは違うと思います。
- ただ、いつも心で願っていることは『子どもたちが、幸せにイキイキと生きていけるように』ということではないでしょうか!
これからの世界を創っていく子どもたちのために、私たち大人は、できることから始めていかなければいけないと切に思います。
- そこで、**あおもり家庭教育10か条**をご紹介しますとともに、是非ご家族で話し合ってみてはいかがでしょうか?

※「あおもり家庭教育10か条」は、青森県教育委員会が、社会全体で家庭教育を応援していく取り組みの一つとして、子どもたちが夢を持ち、社会と関わってたくましく育つよう、「家庭で取り組みたい、地域で応援したい」大切なことをまとめ、作成したものです。「あおもり家庭教育10か条」のちよっとしたヒント(11ずつ)と書かれてきた大切なことから、家庭という一本の木に、たくさんの実を結んでいきましょう。



あおもり家庭教育10か条 青森県教育委員会

子どもは親の金銭? あせ

鳴海先生の子育てQ&A



児童心理治療施設「青森おおぞら学園」
施設長 鳴海明敏さん

「チャイルドラインあおもり」で子どもの声を電話で受ける活動もされている鳴海さんは、とてもわかりやすく私たちの疑問や質問に寄り添ってくださいます。

Q 子どもと一緒に決めたはずのゲームやテレビのルールが、最近守られておらず、こちらもイライラしてきてその対応がなかなかうまくいきません。はじめをつける大切さを知ってほしいのですが…。



A この質問を見たときに、「アレ、この質問にはお答えできないなあ」と思いました。我が家では、スーパーファミコンやプレステは一度も購入したことがありませんでしたし、私もうちの奥さんも成人した娘たちも、いまだに《ガラケー》を使っています。そんなわけでお断りしようと思っていたのですが、質問の中の「子供と一緒に決めたはず」というところが目にとまったので、思い直してお答えしようと思います。

もしかしたらこの質問をされた方は、《一度話し合っただけで決めたルールは、未来永劫破られることはない》と思っておられるのではないのでしょうか。神様との約束であればそういうこともあるかも知れませんが、心の弱い、人間と人間との間の約束は、破られるのが当たり前で、「約束を守り通そう」としても、守りきれなくなつちやうのが人間なんだ」と私は思っています。

だから、約束が守れなくなつたり、どつちかが約束を破るようになったら、その都度話し合いをしたり約束をし直したりして、ルールの一部を修正していくものだと思います。この作業は、何度も何度も繰り返していく必要があるものです。また、約束がちゃんと守られているかどうかは、お互いの責任で監視し、いなければいけないし、二人の間の約束であれば、どちらからでも、その約束について話し合いをしようと言いつけるようにしておく必要があります。建築工事などの契約も、だいたいそうなっていますよね。

ということでは、この質問をされた方も、子どもと一緒に決めたルールが守られていないと思われているのでは、お母さんのほうから提案して、「ルールについて話し合い」をしてみたらどうでしょうか。

大事なことは、一度決めたルールを絶対のものとしてそれを守らせることではないのだと思います。

それよりも、お互いに思っていることや気が付いたことを出し合って、どうして守れないのか、どんなふうにするかを修正すれば守れるようになるのか、お互いが納得できるまで話し合いをすることが出来る、そんな親子関係を築くことなんだと私は思います。

命があること、生きていることは、「当たり前」だと思っていないませんか？

「命の授業」～腰塚 勇人さん～

今回は、平成26年8月に青森市内で開催された腰塚勇人さんが講師のキャリア教育講演会「命の授業」～今の幸せに気づくことから夢はひろがる～に私たち家庭教育サポーターが参加した感想を紹介します。



講師・腰塚勇人さんは、小学校3年生の時の担任の先生からの「講座依頼」をきっかけに、その活動を自分の使命として生きていこうと決意しました。それは、『死にたい、生まれてこなければよかった…』『僕なんて何をやっても駄目だ!』『おとうさんやおかあさんのこと、大嫌い!』『家になんか帰りたくない!』『学校なんか来たくない!』と思っている子どもたちに、お前の『事故からの経験や学び』を話してほしい…というものでした。

自分の命があらゆるものに助けられ、生かされている

そんな彼を救ったのは周りの人たちでした。そして、「自分はひとりで生きているのではない。命は自分ひとりのものではない。」と気づきます。この気づきをきっかけに、腰塚さんは、奇跡的な回復力を発揮して、たった4か月で現場復帰を果たしました。

子どもたちに伝えたい 命の本当の大切さを

大けがをして入院・リハビリをする中で、腰塚さんが一番感じたことは、自分の命が生かされ周りの人たちに支えられていることだったそうです。この「生かされた命が喜ぶ生き方」をするために「5つの誓い」を決めました。

- 「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
- 「耳」は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。
- 「目」は、人のよいところを見るために使おう。
- 「手足」は、人を助けるために使おう。
- 「心」は、人の痛みがわかるために使おう。

子どもたちに『命の大切さや自分の存在の大切さ、そして当たり前だと思っていたことに「幸せ」と「感謝」の気持ちを持つ』ことを伝えたいです。そして、私たち大人がいま一度「自分の命の使い方」を真剣に考え、子どもたちにどんな生き方を見せられるかを学ぶ機会を持ちたい!と思いました。

青森市子育てサポートセンター

青森市子育てサポートセンターの運営は、私たち《青森市家庭教育サポーター連絡会》が、青森市教育委員会から家庭教育事業を受託して行っています。「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい!」という熱い思いで、活動に取り組んでいます。

TEL・FAX 017-774-6537 〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア(勤労青少年ホーム)2F
Eメール aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp ブログ <http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara>

【開設日時】 毎週火曜日 10:00~13:00

